

〔野菜〕

1. 果菜類

1)イチゴ

品種動向:促成栽培では、福岡は「あまおう」、佐賀・大分・宮崎・鹿児島は「さがほのか」、長崎は「さちのか」、「ゆめのか」、熊本は「さがほのか」、「紅ほっぺ」および「ひのしずく」が主要品種。長崎で「ゆめのか」への転換が進む。

促成栽培（福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島）:[平成 27 年定植]8 月下旬から気温が低く推移し、頂果房の分化が平年より早かった。11～12 月の気温が平年より高温傾向で頂果房の出荷が前進し、年内収量は平年より多かった。1～2 月は寒波と株の消耗により出荷量は伸び悩んだ。3 月上旬の気温上昇により 3 月以降に出荷ピークとなったが、最終的な収量は平年並みか福岡、長崎、熊本では平年より少なかった。うどんこ病、炭疽病、ハダニの発生がやや多かった。長崎では灰色かび病が多発した。佐賀では CO₂ 発生装置の導入や不耕起栽培の普及が進み、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島では天敵導入が進んだ。

夏秋どり栽培(宮崎):品種は「みやざきなつはるか」。標高 600m 以上の高冷地で 6 月下旬収穫開始。8 月中旬以降の猛暑により成り疲れと小玉傾向となり、出荷量は少なく、収穫終了は 11 月下旬となった。

2)トマト

品種動向:品種に大きな動きは見られないものの、福岡では黄化葉巻病抵抗性品種の導入が進む。「麗容」、「CF 桃太郎はるか」、「感激 73」、「桃太郎ピース」、「りんか 409」等が促成および抑制栽培用の主要品種。夏秋栽培用は「りんか 409」、「みそら 64」。

促成栽培（福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄）:[27 年定植]定植後の生育は順調で、11～12 月の高温により年内出荷量は前年を上回った。1～2 月はやや低温と成り疲れにより出荷量はやや少なかったが、3 月以降の出荷量は増加し、全期間の収量は平年並みであった。熊本では熊本地震の影響と 6 月の梅雨入りから降水量が多く、寡日照傾向で収穫終了がやや早まる地域があった。全体としては、疫病や灰色かび病、黄化葉巻病の発生が見られ、佐賀では青枯病、熊本では褐色根腐病、青枯病、大分ではコナジラミ、宮崎では葉かび病、コナジラミ類、鹿児島ではすすかび病や褐色輪紋病が発生した。

普通栽培(熊本、大分、宮崎):定植後の冷え込みで初期生育は遅れ、その後天候に恵まれ生育は回復したが、梅雨入後の大雨、寡日照により草勢が低下傾向になり、出荷量は熊本では平年並、大分では増加、宮崎では平年より少なかった。熊本では 9 月に台風の影響で小玉傾向になった。宮崎では 8 月の台風等による天候不順により葉かび病やうどんこ病、ヨトウムシ類やコナジラミ類の発生が多かった。

抑制栽培(熊本):9 月の台風、10 月前半の高温、その後の寡日照により、小玉傾向となり、1 月までの出荷量は前年より少なかった。

3)ナス

品種動向:促成栽培用の主要品種は「筑陽」。単為結果性品種「省太」が福岡、「あのみり」が鹿児島で導入。早熟・普通栽培用としては、佐賀で「黒錦 2 号」、「黒船」、熊本で「筑陽」、「黒紫大長」、「黒船」等。

促成栽培(福岡、佐賀、熊本、鹿児島、沖縄):[27 年定植]福岡では 10 月の好天や 11 月の高温により年内出荷量は前年を上回ったが、1 月と 4 月下旬の日照不足により出荷量は前年よりやや少なかった。佐賀、熊本、鹿児島は前年並みの出荷量であった。沖縄では生産量は前年より多かった。アザミウマ類の発生が目立ち、特に沖縄では防除が難しくなっており、福岡、佐賀、熊本ではタバコカスミカメムシ等の天敵導入が進められている。病害ではすすかび病、灰色かび病、青枯れ病等が発生した。

早熟・普通栽培(佐賀、熊本):佐賀では 9 月の天候不順により収量が減少した。熊本では梅雨入後の大雨、寡日照により 8 月までの出荷量は前年よりやや少なかったが、9 月の台風、10 月上旬の高温、寡日照の影響はあったものの、その後の天候回復により出荷量は前年並みであった。青枯病、すすかび病およびアザミウマ類が発生した。

4)ピーマン

品種動向:促成栽培の主要品種は、宮崎では「京鈴」、「みやざきグリーン」、鹿児島では「TM 鈴波」、沖縄では「ちくさ」、「みおぎ」。早熟・普通作型では「京まつり」、「さらら」、「京ひかり」が栽培される。

促成栽培(宮崎、鹿児島、沖縄):[27年定植]宮崎では生育は順調で10月上旬より出荷開始、11月以降は日照不足で軟弱徒長、草勢低下が見られ、菌核病、黒枯れ病、斑点病等の発生が多く、1月から生育は回復したが、出荷量は前年よりやや少なかった。3月から気温上昇とともに収量も増加したが、4月の天候不順により斑点病やうどんこ病、黒枯れ病が多発した。鹿児島では年内は高温のため着果数が多く、1月は成り疲れて出荷量は減少したが、その後回復し、収量は前年よりやや多かった。4月頃から斑点病や黒枯れ病が前年より多発した。沖縄では高温で初期生育が悪く、1月の寒暖差が大きく花落ち等が見られたが、出荷量は前年並みであった。宮崎、鹿児島ではアザミウマ対策としてスワルスキーカブリダニやタバコカスミカメが導入されている。

早熟・普通栽培(熊本、大分、宮崎):熊本、宮崎では定植後の生育は順調であったが、6月の大雨、寡日照、9月の台風、10月上旬の高温等により、出荷量は前年より少なかった。大分では前年よりやや多い生産量。宮崎では葉かび病やすすかび病が多発した。

5)キュウリ

品種動向:促成栽培用品種としては「極光607」、「輝世紀」、「千秀2号」等。早熟・普通作型では「ビュースター」、「豊美1号」、「アルファ節成」他、抑制作型では「ゆうみ637」、「極光607」、「エクセレント620」、「輝世紀」他が栽培。沖縄では促成から抑制作型まで「輝世紀」および「エクセレント353」が主要品種。

促成・半促成栽培(福岡、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄):[27年定植]定植後は好天に恵まれ生育は順調であった。全般に1~2月は低温と日射量の減少により、出荷量は前年よりやや少なかった。3月以降は天候に恵まれ、生育は回復し、収量も増加したが、総収量は前年並みかやや下回った。佐賀ではCO₂施用やIPMの導入が進む。キュウリ黄化えそ病、べと病、褐斑病、アザミウマ類、コナジラミ類の発生が見られた。

早熟・普通栽培(熊本、宮崎、沖縄):全般に梅雨期の長雨で出荷量は少なく推移し、7月に入り天候は回復し、8月の出荷量は前年よりやや増加したが、9月の台風、10月上旬の高温・寡日照傾向により、出荷量は前年並みであった。宮崎では長雨の影響で曲がり果等の奇形果の発生が多く、沖縄ではミナミキイロアザミウマやキュウリ黄化えそ病の発生が多かった。

抑制栽培(佐賀、宮崎、沖縄):天候に恵まれ、定植後の生育は順調。11月より日射量が少なく、夜温が高く、出荷量が少なかったが、佐賀では前年並みの収量であった。宮崎ではうどんこ病や褐斑病、沖縄ではミナミキイロアザミウマやキュウリ黄化えそ病の発生が多かった。

6)スイカ

品種動向:促成・半促成および抑制作型用の大玉主要品種は、「春のだんらん」、「祭りばやし777」、小玉は「ひとりじめ7」、「マダーボール」。早熟・普通作型用の品種は、鹿児島では「祭りばやし777」、沖縄では「朝ひかりSR」、「富士光TR」。長崎では小玉スイカ「うり坊」、「マダーボール」、「ひとりじめbonbon」が栽培される。

促成・半促成栽培(熊本、鹿児島、沖縄):[27年定植]熊本では1月下旬、2月下旬の冷え込みにより生育がやや遅れ、3月以降は天候に恵まれたが、4月出荷は小玉傾向であった。5月以降天候に恵まれ果実肥大は回復したが、出荷量は前年よりやや少なかった。鹿児島では定植後の生育は順調で、3月の交配期は天候に恵まれ、果実肥大は良かった。沖縄ではミナミキイロアザミウマの発生が多く、ウイルス病が多発した。

早熟・普通栽培(長崎、鹿児島・沖縄):[28年定植]長崎の3月定植の小玉の作柄は良好であった。長崎、鹿児島の普通栽培では交配期の日照不足による着果不良が見られ、小玉傾向であった。沖縄(北部)ではミナミキイロアザミウマの発生が見られたが、前年並みの生産。

抑制栽培(熊本、沖縄):熊本では9月の台風の影響で生育が遅れ、10月上旬の高温、寡日照傾向、その後天候に恵まれ草勢、着果、果実肥大は回復したが、出荷量は前年の8割程度であった。沖縄ではミナミキイロアザミウマの発生が多く、ウイルス病が多発した。

7)メロン

品種動向:「アンデス」、「プリンス」、「ホームラン」、「クインシー」、「肥後グリーン」、「アールス雅」系、「アー

ルスセイヌ」系、「アールスベネチア」系の多様な品種が、産地・作型毎に栽培される。品種の変動はほとんどない。

促成・半促成栽培(熊本、沖縄)：[27年定植]熊本では1月下旬、2月下旬の冷え込みにより、初期生育がやや遅れ、3月以降は天候に恵まれたが、3月出荷は小玉傾向であった。4月以降は天候に恵まれ、果実肥大は回復したが、前年より出荷量は少なかった。沖縄ではネット形成期に天候不順の影響を受け、果実の硬化が進まず、大玉傾向であった。

抑制栽培(熊本)：台風の影響で定植後の生育が遅れ、10月上旬の高温、寡日照傾向、その後天候に恵まれ草勢、着果、果実肥大は回復したが、出荷量は前年の9割と少なかった。

いずれの作型でも、退緑黄化病、つる割病、うどんこ病が発生した。

8)カボチャ

品種動向：「えびす」、「くりゆたか」の他、「くりほまれ」、「栗将軍」。沖縄では「ほっとけ栗たん」も。

促成・半促成栽培(沖縄)：[27年定植]南部では11～1月の高温により生育が早く、授粉も平年より10日程早かったが、トンネル栽培では高温障害が見られた。1月末の寒波や強風により草勢が弱まり、収量は前年より少なかった。宮古では直播栽培が行われ、9月下旬～10月上旬播種は天候に恵まれ順調に生育したが、10月中旬～11月播種は多雨と強風により病害が多発し、小玉・未熟果が目立った。八重山では天候に恵まれ、作柄は概ね良好であった。

早熟栽培(長崎、鹿児島、沖縄)：長崎では疫病が発生し、作柄は不良であった。鹿児島では交配期の降雨により着果数が減少し、6月の集中豪雨で疫病が発生し、収量は平年を下回った。沖縄(宮古)ではモザイク病や果実斑点細菌病が蔓延し一部収穫できない圃場があった。

抑制栽培(長崎、鹿児島、沖縄)：長崎では降雨により作柄はやや不良であった。鹿児島では台風により茎葉折損など甚大な被害を受け、収量は大幅に減少した。沖縄(八重山)ではウイルス病や初期の高温による葉枯れが発生したが、雨が少なく作柄は良好であった。

9)ニガウリ

品種動向：「えらぶ」(長崎、宮崎、鹿児島)の他、宮崎では「佐土原3号」、「ゴーヤ節成」、「パワフルレイシ」、「宮崎つやみどり」、鹿児島では「か交5号」、「か交7号」、「チャンピオン」が栽培される。沖縄では「汐風」(促成、半促成、抑制)、「群星」、「夏盛」、(早熟・普通:施設)、「島風」(早熟・露地:露地)。品種の変動は小さい。

促成・半促成栽培(宮崎、鹿児島、沖縄)：[27年定植]宮崎では促成の生育は12月より天候不順により草勢が低下し、1月は果実肥大が鈍くなったが草勢・着果の状況は良好であった。2月には雌花が増加したが草勢がやや低下した。半促成は4月の天候不順により生育遅れが目立ち、うどんこ病やヨトウムシ、アザミウマ類が発生した。鹿児島では日照不足と長雨により出荷時期が遅れ、5月は収穫量が減少した。沖縄では10月の台風襲来による定植遅れや冬期の低温により作柄が安定しなかった。

早熟・普通栽培(長崎、宮崎、鹿児島、沖縄)：長崎では生育は概ね順調で、作柄は安定した。宮崎では6月に入り、日照不足による草勢の低下、不受精や果実の肥大不良が発生。露地は8月に高温乾燥により草勢が低下し、尻細や流れ果等が多発し、9月の台風で茎葉が損傷し、草勢の低下が大きく収穫量が低下した。鹿児島では7月中旬以降は晴天に恵まれ、安定した出荷で、7～9月の収穫量は前年より3割多かった。沖縄(北部)では収量は平年並みで、インゲン、キュウリ、キク等の後作として作付けを推進している。

抑制栽培(鹿児島)：9月の台風や高温等により生育が抑制され、収量は前年の5割程度と少なかった。

うどんこ病やアザミウマ類、ヨトウムシ、アブラムシ類の発生が見られた。

10)サヤインゲン

品種動向：「ベストクroppキセラ」、「ビクリジャンボ」、「サーベル」等。沖縄では半つる性「ケンタッキーブルー」を中心に栽培。わい性インゲン(サーベル)の長期収穫に取り組む農家が増える。

促成・半促成栽培(鹿児島、沖縄)：[27年播種]鹿児島では初期生育は順調で1月中旬までは収量も安定していたが、下旬の低温やその後の日照不足等により2月は減収し、その後は回復した。沖縄(中部)では11～12月の高温による落花や奇形果の発生、1月下旬の低温による草勢低下、収穫期後半のダニ類等

の害虫の多発生により生産量は前年より少なかった。北部では9月～1月上旬と3月下旬以降は、高温による生育不良や害虫が多発し、白莢や奇形果が多く品質の低下が目立ち、低温期には菌核病の発生が多かった。

早熟・普通栽培(長崎、鹿児島、沖縄):長崎では寒波により一時生育が停滞したが、以降回復した。春先の降雨により一部で白絹病の発生が見られた。鹿児島では生育は順調で、収量も平年並み。沖縄(南部)では9～10月播種は高温のため生育不良や白莢が多く、11～1月はインゲンモグリバエによる被害が多かった。低温期に入り、菌核病の発生は見られたが、早期防除により生育は概ね順調であった。

抑制栽培(長崎、鹿児島):長崎では干ばつで播種が遅れたため、収穫開始が遅れ、以降も降雨や日照不足の影響を受け、作柄はやや不良であった。鹿児島では高温のため播種期を遅らせたが、初期生育は順調であった。9月上旬の台風で被害を受け、播き直しをした圃場が多く、収穫は平年より遅くまでできたが、収量は減少した。

アザミウマ、マメハモグリバエの発生が多いほか、菌核病(沖縄)、チャノホコリダニ等の発生が見られた。

11)ソラマメ(鹿児島)

品種動向:主要品種は「陵西一寸」、「さくら一寸」、「ハウス陵西」、「唐比の春」。品種は替わらず。

秋まき栽培:[27年播種]初期生育は順調であったが、1月下旬の寒波で下節位が落花し、4月下旬以降の高温多雨により株が早枯れし、収量は平年の7割程度と少なかった。

夏まき栽培:9～10月の低温と11月以降の高温により下節位の着莢・肥大が良好で、年内収量は平年の2倍以上となった。収穫初期にしみ症が多発。着莢負担による草勢低下、1月下旬の甚大な寒害で、収量は平年の4割程度と極めて少なかった。

12)エンドウ(鹿児島)

品種動向:「ニムラサラダスナップ」が主要品種。他に「スーパーグリーン」、「あくねグリーン」、「南海緑」。「まめこぞう」が増加。

秋まき栽培:[27年播種]初期生育は順調であったが、1月下旬の寒波で下節位が落花し、4月下旬以降の高温多雨により株が早枯れし、収量は平年の7割程度と少なかった。

夏まき栽培:スナップエンドウは、9～10月の低温と11月以降の高温により下節位の着莢・肥大が良好で、年内収量は平年の2倍以上。1月下旬の寒波で心止まりし、ほとんどの圃場が栽培を中止したため、収量は平年の6割程度であった。

アザミウマ類、褐紋病、褐斑病が発生した。

13)オクラ

品種動向:主要品種は「ピークファイブ」、「ブルースカイ」、「ニュースカイ」、「アーリーファイブ」他。

促成・半促成栽培(鹿児島、沖縄):[27年播種]鹿児島では5～7月に曇雨天が多く、着莢不良と病害(灰色かび病等)発生により収量は平年の8割程度と少なかった。沖縄は平年並み。

早熟・普通栽培(熊本、宮崎、鹿児島、沖縄):熊本では早い作型で播種、定植時期の冷え込みにより初期生育は遅れたが、出荷は順調であった。9月の台風で草勢は低下したが、10月上旬の高温・寡日照傾向、その後の天候に恵まれ草勢は回復したため、出荷量は前年よりやや多かった。宮崎では葉枯れ病や立枯れ病が発生し、5月から天候不順の影響で草勢が弱く、葉枯細菌病が発生。6月中旬から生育が安定し出荷量も増加したが、9月の台風による倒伏で傷果等が発生し、10月に早期に栽培終了となる圃場もあった。11月中旬で栽培終了。鹿児島では5～7月に曇雨天が多かったため、収量は平年の8割程度であった。沖縄(中部)では苗立枯性病害の発生が多く、播き直しや補植が行われ、台風接近が殆どなく、産地全体の生産量は前年よりやや多かった。八重山では1～3月に長雨、低温により苗立枯性病害が蔓延し、播き直した圃場も多かったが、作柄は概ね良好であった。

2. 葉根菜類

1)アスパラガス

品種動向:「ウエルカム」。品種の動きはほとんどない。

半促成栽培(福岡、佐賀、長崎、熊本):北部九州各県ともに、春芽は細物が多く収量は前年より少なかった。夏芽は梅雨明け後の高温により葉焼けや樹勢低下、福岡では開きや曲がりが多発したが、収量は前年並みであった。熊本では春芽の出荷量は前年並み、8月までの出荷量は前年よりやや多く、9月の台風襲来で一時的に草勢が低下したが、10月中旬以降天候に恵まれ草勢は回復したため、出荷量は前年より多かった。

茎枯病、斑点性病害(斑点病・褐斑病)、ネギアザミウマ、ハダニの発生が見られた。夏季の高温対策として、遮光資材やUVカットフィルムの導入が進む。

2)ネギ

(1)コネギ

品種動向:産地、季節に応じて使い分けて周年栽培。福岡の周年栽培では「FDH」と「冬彦」が2大品種、佐賀では「鴨頭」、「冬彦」、「ストレート」。大分では「若殿」が主で、「冬彦」、「ストレート」など耐倒伏性品種を導入。

周年栽培(福岡、佐賀):福岡では4~6月どりは春先の曇天により徒長気味の生育、その後の高温により倒伏や葉先枯れが多発し、品質が低下した。7~8月どりは梅雨明け後の猛暑により葉先枯れや倒伏が発生し、出荷量が平年より少なく、品質も低下。10~11月どりは平年より出荷量は減少、12~1月どりは増加、2月以降は品質が低下した。佐賀では3~4月の出荷量は前年より少なく、5月は前年並み、6~8月の出荷量は前年より少なく、9~11月も高温による発芽不良等の影響で出荷量は前年より少なかった。12~2月の出荷量は降雪・低温より前年の7~8割と少なかった。大分では夏場の高温・多日照の影響による葉先枯れや発芽不良により夏から秋にかけての収穫量が減少した。その他の期間は順調に生育し、特に冬場の出荷量は増加した。

ネギハモグリバエ、アザミウマ、また根腐萎凋病およびボトリチス菌による葉先枯れの発生が見られた。虫害抑制のため、UVカットフィルムの導入が拡大している。

(2)ネギ

品種動向:主要品種は「春扇」、「羽緑一本太」、「達まさり」、「龍翔」、「関羽一本太」、「夏扇4号」、等で、作型・産地(標高)に応じて使い分け。

夏まき栽培(大分):[27年播種]順調な生育・出荷であった。

秋まき栽培(大分):[27年播種]順調な生育であった。

冬まき栽培(大分、鹿児島):[27年播種]大分では梅雨期の雨や夏場の高温・少雨により生育の停滞や病害(軟腐病、白絹病)が発生し、収穫量は減少した。鹿児島では10~11月どり作型が普及しつつあるが、追肥培土の技術的整理が不十分であるため、肥大不足が多発した。

春まき栽培(大分、鹿児島):大分では夏場の高温・多日照や秋の多雨・日照不足により、生育遅延や病害の発生が見られ、収穫量が減少した。鹿児島では9月中旬の台風接近による降雨で折損被害が散見されたが、年内の気温が高めに推移したため肥大は順調に推移し、L~2L規格中心の出荷であった。

3)タマネギ

品種動向:早出し用として「貴錦」、「レクスター1号」、「スパート」、普通用として「ターザン」、「七宝早生7号」、「もみじ3号」他が、作型に合わせて栽培される。沖縄では「F1037」。

秋まき(早出し)栽培(佐賀、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄):[27年播種]佐賀では年内暖冬の影響で生育は平年以上に進んだが、1月の大寒波で分球抽台が増加。べと病が早生品種のマルチ栽培で2月中旬から発生した。長崎では年内の日照不足や1月の日照不足や寒波・積雪等の天候不順があったが、前年並みの出荷量であった。宮崎では生育は順調で、大玉、分球が多かった。鹿児島では10~11月の天候に恵まれ、生育が前進し、平年より多収傾向であった。沖縄(宮古)のセット球栽培では初期生育は順調であったが、12月からの多雨・日照不足により球肥大が悪く、小玉で腐敗球が多かった。

秋まき(普通)栽培(佐賀、長崎、鹿児島):[27年播種]佐賀では年内暖冬の影響で生育は平年以上に進んだが、1月の大寒波で分球抽台が増加。3月中旬以降、断続的にべと病が発生し、収量は減少した。ターザン以外はべと病が蔓延し、葉面積が確保できずに球肥大が抑制された。長崎では降雨により定植が遅れ、

べと病が多発し生産量は激減した。鹿児島では法人を中心に加工業務用栽培が増加している。

4) ニラ(大分)

主要品種は「タフボーイ」、「スーパーグリーンベルト」、「ミラクルグリーンベルト」。

半促成栽培(冬ニラ):7~8月定植時の高温や9~10月の降雨の影響も小さく、収穫開始の11月中旬以降は比較的気温が高く推移し、順調な出荷であった。白斑葉枯病の発生が見られた。

普通栽培(夏ニラ):春定植後の初期生育は良好であったが、6~7月上旬の多雨、日照不足、梅雨明け後~8月の高温・干ばつによる葉先枯れ等の品質低下を招き、8月前後の出荷量が減少し、前年をやや下回る出荷量であった。

5) レタス

品種動向:産地、作型に対応し、「ステディ」、「ラガシー」、「ツララ」、「サウザー」他。佐賀では「サウザー」、「ステディ」が業務用として周年用いられる。沖縄では秋まき用および春まき用に「ラプトル」、冬まき用に「グリーンストーン」が栽培される。

秋まき栽培(佐賀、長崎、鹿児島、沖縄):[27年播種]佐賀では生育期間中の気温が高く、球締まりが悪くなり収量は伸びなかった。長崎では年内の前倒し出荷となり11~12月の出荷量は平年より多く、1月の出荷量は減少した。鹿児島では年内の高温により収穫が前進化した。沖縄(南部)では生育期の高温により出荷は前進化し、チップバーンも発生し、生産量は低下した。

冬まき栽培(佐賀、長崎、沖縄):[27年末・28年1月播種]佐賀では寒暖の差はあったが、収量は安定した。長崎ではトンネル栽培のため生育は概ね順調であった。沖縄(南部)では1月の低温により小玉傾向となり、生産量は減少した。タイワンシロガシラの被害が一部発生し、対策として防鳥ネットの被覆が行われる。

春まき栽培(佐賀、沖縄):佐賀では順調な生育で推移。沖縄では収穫期後半は高温によりチップバーンが発生し、生産量は減少した。

夏まき栽培(佐賀):中山間地では台風被害により減収。9月の長雨による腐れ等が発生した。

6) ホウレンソウ(佐賀、宮崎)

産地、作型により多数の品種が栽培される。佐賀では秋・冬まき用として「ハンター」、「トラッド7」、「黒葉ルーキー」、春まき用として「晩抽サマースカイ」等、夏・秋まき用として「トラッド7」、「夏あかり」、宮崎では秋まき・春まき用として「クロノス」、「サンライズ7」、「スーパーアーリーナ7」。

ホウレンソウは栽培期間が短く、また集約的に栽培されるため、気候の影響を受けにくい。いずれの産地、作型においてもほぼ順調な生育であった。ただし、佐賀の春まきでは5月中旬の低夜温により、夏・秋まきでは9月の天候不順により収量がやや減少した。宮崎の秋まきでは1月以降の極端な気温変化による葉の白化や生育の停滞により、収穫量は平年より少なかった。

佐賀では萎凋病とケナガコナダニ、宮崎では炭疽病が一部発生した。

7) ハクサイ(長崎)

主要品種は「きら星」、「黄ごころ」、「結福」、「ほまれの極」他。

冬まき栽培:[28年播種]1~3月収穫作型の作柄は良好。4~5月収穫の作型は、平年並みの作柄だったが、べと病が発生した。

8) キャベツ

品種動向:産地、作型により多様な品種が栽培される。佐賀の秋まきでは「おきな」、「冬藍」、鹿児島の秋まきでは「夢ごろも」、「若隅3号」、沖縄の秋まき・冬春まきでは「はやどり」、「ビューティボール」が栽培される。夏まきでは「松波」、「冬武者」、「かんなみ」、「夢舞台」、「夢ごろも」、「金春」等。

秋まき栽培(佐賀、鹿児島、沖縄):[27年播種]佐賀では秋以降の高温により年内は前倒しの出荷となった。鹿児島では4月どり作型が普及しつつあり、生育は順調で前進化。一部地域で根こぶ病が発生した。沖縄では天候に恵まれ順調な生育。佐賀では水田裏作作物として推進中。

冬・春まき栽培(沖縄):[27年末・28年播種]沖縄(北部)では降雨量が少なく、チップバーン等の障害が見られた。

夏まき栽培(佐賀、鹿児島):佐賀では9月の大雨で軟腐病、黒ぐされ病が発生したが、年内収量は多か

った。鹿児島では年内どりで黒腐れ病が目立ち、一部地域で根こぶ病が発生。3月どりで年内気温が高めに推移したため生育は順調で、平年より前進傾向であった。

根こぶ病、黒腐病、菌核病、ネギアザミウマが発生し、沖縄ではシロガシラやコナガ等害虫の被害が見られた。

9) ブロッコリー

品種動向: 「ピクセル」、「おはよう」、「サマードーム」、「恵麟」、「彩麟」等。

秋まき栽培(福岡): [27年播種] 秋季の曇天長雨により定植が遅れ、定植後の初期生育は遅延気味であった。11月以降は高温多湿傾向で生育が促進され、年内の出荷量は増加したが、病害(黒すす病、花蕾腐敗病、組織内べと病)の発生が増加した。

冬春まき栽培(福岡・長崎): [27年末・28年播種] 福岡では1~2月は低温や降雪のため生育が遅延気味であったが、3月中旬以降は高温傾向で生育は順調となり出荷量も安定した。長崎では作柄は良好で平年並みであった。

夏まき栽培(福岡、佐賀、長崎): 福岡では台風や多雨の影響で定植後の生育は遅延気味となり、9~10月の高温・多湿・寡日照で病害虫が多発し出荷量は減少した。佐賀では多雨傾向で適期定植ができず、前年に比べて大幅に減収した。長崎では定植後の干ばつによる活着不良、秋口以降の多雨による黒腐病の多発等のより作柄は不良であった。

10) ダイコン

品種動向: 産地、作型によりきわめて多数の品種が栽培される。品種の動きも速い。冬まき用として「初誉」、「春慶」、「早生ながはる」、「春神楽」、春まき用として「つや風」、「トップランナー」、夏まき用として「夏天下」、「夏の守」、秋まき用として「耐病総太」、「早生ながはる」、「秋神楽」他多数。鹿児島の冬・春・夏まきでは内部が白く、総太りの品種が増える傾向。

冬まき栽培(長崎、鹿児島): [27年播種] 長崎では生育は順調に進み、作柄は安定した。鹿児島では気温が高く推移し、生育はやや早かった。

春まき・夏まき栽培(鹿児島): 春まきでは生育は順調。夏まきではキスジノミハムシや鱗翅目による被害が多かった。

秋まき栽培(長崎、宮崎、鹿児島): 長崎では11月収穫までは小物生産であったが、12月以降は平年並みの作柄。宮崎では9月の台風による表土流亡や茎葉損傷により播き直し、軟腐病の発生があり、その後の生育は順調であったが、出荷量は平年より少なかった。鹿児島では暖冬により10日程度生育が前進し、肥大が早かった。加工・業務用の出荷が増加。

11) ニンジン

品種動向: 主要品種は「彩誉」、「愛紅」、「向陽2号」、その他「敬紅」、「黒田五寸」、「朱衣」。沖縄の秋まきでは「TE30」が栽培される。

秋まき栽培(鹿児島、沖縄): [27年播種] 鹿児島では生育・肥大は順調であった。沖縄(中部)では栽培面積が拡大し、生産量が増加した。

冬まき栽培(長崎): [27年末・28年播種] 11月中旬以降の降雨により播種が遅れ、1月の日照不足や寒波・積雪の影響で小物生産となった。梅雨入り後の記録的降雨等の影響で収穫作業も遅れ、前年より10日遅れの出荷終了となった。

夏まき栽培(長崎、宮崎、鹿児島): 長崎では台風や猛暑で発芽不良や播き直しが散見された。発芽後の生育は日照不足や寒波・積雪等により不順で、特に年明けは小物生産であった。宮崎、鹿児島では台風の影響で播き直しや発芽不良が散見されたが、発芽以降の生育は好天に恵まれ順調で、12月から収穫が始まった。

12) ゴボウ

品種は「柳川理想」、「山田早生」他。鹿児島では加工用として「常豊」が普及。

秋まき栽培(福岡、宮崎、鹿児島): [27年播種] 福岡では天候不順で発芽が揃わなかった。11月下旬の高温、12月上・中旬の低温、1~2月の寒波により一時的な品質低下(変色)が発生し、雑草やべと病の発

生が前年より多く、生産量は前年の 8 割程度であった。宮崎では水田への作付けで、秋期の気温が高かったため肥大が良く、収量は平年より 2 割多かった。鹿児島では台風の影響で播き直しや発芽不良が散見されたが、発芽以降の生育は天候に恵まれ順調で、12 月上旬からの収穫となった。

冬まき栽培(宮崎、鹿児島):[27 年末・28 年播種]宮崎では 4 月から収穫が始まり、生育・収量は平年並み。鹿児島では暖冬傾向により発芽は良好、生育も順調で、作付面積も増えたため、生産量は多かった。

春まき栽培(宮崎、鹿児島):宮崎では生育は順調で根の肥大も良好であったが、ヒョウタンゾウムシやネモグリバエの被害が見られた。鹿児島では春先の日照不足と強風で生育はやや遅れたが、それ以降の生育は順調で、生産量は多かった。サラダ用途に適する若掘りゴボウの栽培面積が増加し、長ゴボウは減少傾向。

13)バレイショ

品種は、「ニシユタカ」、「メークイン」、「デジマ」、「トヨシロ」他。

秋作抑制・冬作(長崎、鹿児島、沖縄):[27 年末・28 年 1 月播種]長崎では平年並み。鹿児島では 1 下旬の積雪(本土)および寒波(奄美)により、生産量は大きく減少した。沖縄(北部)では栽培面積の減少や疫病の発生により生産量が減少した。

春作(長崎、宮崎、鹿児島):長崎では天候不順により植付後の発芽が不揃となり、4 月以降の降雨による疫病の発生や強風による茎葉の損傷等により、収量は前年より少なかった。宮崎では生育は順調であったが、疫病の発生でも肥大が悪く、収量は平年の 8 割と少なかった。鹿児島では 1~3 月の低温、4~5 月のやや高温により初期生育が遅れ、生産量はやや少なかった。

秋作(沖縄):北部では気温が高く青枯れ病の発生が見られた。

長崎ではそうか病抵抗性品種「さんじゅう丸」の導入を推進している。

14)サツマイモ

品種は、高糖度品種「べにはるか」の他に、「ベニサツマ」、「高系 14 号」。

早熟・普通栽培(大分、宮崎、鹿児島):[27 年定植]大分では 6 月は多雨・日照不足、7~8 月は高温・干ばつであったが、収穫量は平年並みであった。宮崎では早掘(トンネル栽培)は平年よりやや多収であった。7 月以降の収量は平年並み、8 月以降は平年より少なかった。鹿児島では天候に恵まれ、生育は良好で、いも肥大が良く、多収傾向であった。

15)サトイモ

品種は、「石川早生」、「泉南中野早生」、「大吉」、「大和」他。

促成・半促成(宮崎、鹿児島):[27 年定植]宮崎では生育は順調であった。鹿児島では 1 月の強風により茎葉が損傷し、いもの肥大が抑制された。疫病等の発生により種いも供給量が不足。

早熟・普通栽培(大分、宮崎、鹿児島):[27 年定植]大分では夏期の高温・少雨の影響で一部の灌水未実施圃場では小さい傾向が見られたが、収穫量は前年を上回った。宮崎、鹿児島では疫病が多発し、大幅な減収であった。

16)レンコン(佐賀)

品種は「清秀」、「成蹊」、「金澄 20 号」、「金澄 8 号」。台風等による風の害は少なく、順調に生育し、多収であった。ネモグリセンチュウが発生した。

(九州沖縄農業研究センター 園芸研究領域長 沖村 誠)